

JPC NEWS Vol.14

Japan Pentecostal Council

●特集●

「つながる」



日本ペンテコステ協議会発行 2017.6

巻頭言



日本ペンテコステ協議会議長
(日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団理事長)

寺田 文雄

本協議会は 1998 年 5 月に設立されました。その目的は、日本におけるペンテコステ信仰の健全な成長と発展を促進し、指導者・教職者間の交流を深め、相互理解を図ることです。来年には設立 20 周年を迎えます。各教団の状況を見る時に、当初の体制からリーダーシップチェンジが進行し、新しい時代に入っています。

今回のテーマ「つながる」について、様々な視点と課題を考えることができるのではないのでしょうか？ 第一に、世代間ギャップが広がる新旧世代間をどうつなぎ、若い世代にペンテコステ信仰の未来をどう継承するか。第二に、後継者問題を抱える教会の現在と明日をどうつなぐか。第三に、存在感を増すペンテコステ信仰に立つ諸教団・諸教会が、日本のリバイバルの前進のためにそれぞれの賜物を生かし合い、バラチャーチとの協力も含めたつながりをどうアップデートしていくか。第四に、日本の教会の国際化が進む中、日本と世界の教会の互いの連携協力をより効果的なつながりへとどう変化させるか。国際化する日本の教会に必要な次世代の牧会者やリーダーをどのように育成するかなどです。

本年は、本協議会に日本フルゴスペル教団の加入があり、加盟団体の教会数は 500 教会を超える見込みです。神様の御手の中で、将来的には 1000 教会が加盟するより大きなつながりへと発展することを期待します。日本宣教の前進のために JPC ニュースが相互理解とビジョンの共有の場としてさらに用いられますよう祈ります。共につながりを広げ、救霊の手をあげ続け前進しましょう。

つながる

イエス・キリスト福音の群

代表 永井信義



東日本大震災（2011年3月）以来、イエス・キリスト福音の群（以降、福音の群）は、本部を置く、宮城県黒川郡大衡村の東北中央教会、仙台市にあるプレイズ・コミュニティ・チャーチを中心に、多くの国内外からのボランティアや支援を受け、被災地での救援、支援活動に取り組んできました。現在も仮設や復興支援住宅の訪問など、被災者に寄り添うことを目指し、その活動を継続しています。

6年間ほどの活動の中で、関係づくりが進み、その築き上げられた関係の中から、少しずつではありますが、福音に対して心を開く人たちが与えられています。

そのような取り組みの中で、ルカの福音書10章の中で主イエスが70人の弟子たちを「ご自分が行くつものすべての町や村へ」（1節）遣わされたときに示された宣教のあり方、姿勢のとおり、関係づくりは「神の国が、あなたがたに近づいた」（9節）という良い知らせが受け入れられるために不可欠だということを教えられています。

近年、特に阪神淡路大震災、東日本大震災以降、宣教における包括的なあり方についての理解が進んでいますが、実際に支援活動に取り組むことが、確実に福音を伝える働きへとつながることを体験的に学んでいるわけです。ですから、キリスト者の支援活動は、そして、他のどんな活動も神の宣教の働きであると言えるのではないのでしょうか。

福音の群ではさらに、2017年2月より佐賀県鳥栖市のクロスロード・ゴスペルチャーチから福岡県大野城市にクロス・ゴスペルコミュニティが、また、2017年4月から福岡県福岡市のイエス・キリスト神の愛教会から福岡県春日市にシャイン・チャーチが誕生し、福音の近隣の町へとつなげる働きを展開しています。

主イエスは「さあ、近くの別の村里へ行こう。そこにも福音を知らせよう。わたしは、そのために出て来たのだから」（マルコの福音書1章38節）と弟子たちに告げられました。主イエスから遣わされた者として、つぎの「近くの別の村里」（近隣の別の区や市町村、都道府県）へ宣教の働きをつなげるために用いられたいと心から願います。



ゴスペルタウン

つながる

神の家族キリスト教会

榎 実

グレース・ジャパニーズ・クリスチャン・チャーチ（Canada、Banff）牧師



1996年よりこのカナダ、バンフの地において蒔かれた福音の種が20年の沿革を経て今年で21年目の収穫のシーズンを迎えました。私たち夫婦が2014年の秋より神の家族キリスト教会の枝教会の一つであるこの地の日本人教会に遣わされ3年目の牧会シーズンに入り、神ご自身の不思議な計画と方策により今回のテーマ「つながる」に相応しい神の国の現実がこの地域にも現されていることを感謝申し上げます。

このアルバータ州は日本の国土面積の2倍近くの広さがありますが、その中に日本人教会は僅か4つしかなく、その非常に閉鎖的、独自の日本人教会（日系人）の集まりにおいて過去20年、教会間の交わりは殆どありませんでした。その背景として教理、教派の違いというものも一つの垣根でありましたが、異文化における教会形成と成長を重んじる中で独自の群れ意識が次第に強まり、時の流れの中で「つながる」という点が希薄になっていったのではと考えられます。その困難と思われる状況の中で、主が道を作り、扉を開き、そして昨年2015年より「Arise Night」（教団・教派を越えた集い）が起こされました。この働きにおける核となるビジョンは、全ての教義の中心である主イエス・キリストにあって一つにされるというエペソ4章13節の御言葉の実現であり、この地における福音伝道の前進の為に霊的指導者、そして諸教会の神の民が共に集まり、お互いに「つながり」、そして励まし合う姿とはまさに御国の奥義とも言えるのではないのでしょうか。（エペソ3章6節）

また、この働きにおいてはリーダーの育成という大きなテーマも掲げています。「つながる」という点を考える時、それは単に諸教会が手を取り合う、一致を求めるということ以上に、そのルーツである神と深く「つながる」という点に重点が置かれなければいけません。その上で全ての世代においてキリストを「知る」リーダー達が立ち上がり、整えられていくことを働きの方向性としています。各教会のリーダー達が諸教会のリーダー達と交わり、各々の賜物、召命、そして福音という付加価値たるものを見つめ直し、そして指導者ならではの葛藤を分かち合う中で、リーダーとしての自己像（存在意義）を確認する。これらが念頭におかれ、この働きが前進しています。

マーケットプレイスにおける「つながり」として、昨年から私たちが取り組んでいる事柄は、教会として何かを催し（イベント、行事等）彼らを「招く」、という事と同時に、出て行って彼らの行事に「参加する」という事を意識的に行なっています。ここバンフにおいては人口7000人に対して、1割程が日本人人口と言われています（永住者や一時的移住者含む）。故に、日系人コミュニティという集いがあり、定期的に様々な行事を



マーケットプレイスミニストリー



リーダーギャザリング

行なっています。それらの行事に積極的に参加させて頂き、人々との関係を築く中で教会での働きや福音について機会を用いて語らせて頂いています。「つながる」ということにおいて求められる姿勢とは、能動的な姿勢であり、これが聖書の原則とも言えます。神が私たちを愛し（Ⅰヨハネ4章10節）、私たちにつながってくださったので私たちもこの方を知り、このお方につながることができる。この原則の中で生きる時に、私たちはただ待つ者ではなく、主の御心でもある「出て行く」信仰の姿勢を貫きたいと日々願い前進しています。私どもの群れの指針でもある「キリストの福音宣教をより強力に推進できる信仰の家族」となることを目標とし、日々、聖霊の力と励まし（使徒1章8節）に促され前進していく神の家族キリスト諸教会でありたいと願います。

主は私の嗣業 「主は私の受ける分です。」（詩篇 119:57）

サンビ教団

代表役員 辻 秀彦
ジーザスフェローシップ広島 主任牧師



今回のテーマが「つながる」ということで、焦点を絞ることができていなかったのですが、詩篇 119:57 を通して「嗣業」という言葉に《つながり》ました。

「主は私の受ける分」というとレビ人のことが思い出されます。彼らは約束の地において嗣業としての領土が与えられませんでした。その代わり、「主自身」が彼らに与えられた嗣業でした。（民数記 18:20）彼らには「主」が約束の地で割り当てられた嗣業、相続地、受ける分なのでした。律法には、「地境を移してはならない」とありますが、レビ人は領土的な制約はありませんでした。ただ、主のために仕えることが彼らの永遠に受け継ぐべきものだったのです。

クリスチャンもレビ人のように主にだけ仕える主の民として、世界中からキリストにあって神に選ばれた者たちです。「主は私の受ける分」ということでつながっているのです。

「主は私の受ける分」という嗣業は、一世代だけのものではありません。子々孫々までも受け継ぐべきものです。私個人としても「主は私の受ける分」という嗣業は、私の家族にも言えることです。ですから、二人の娘たちにも、主に仕える献身者の家族であることを伝え導いてきました。今、彼女たちは私と共に、主のために働く教職者として嗣業を継いでくれています。

教会においては、私が就任した30年前は、教会員の子どもたちのほとんどが信仰から離れてしまっていました。このままでは、教会の未来はないと感じ、私の子どもたちと同じ年代の子を持つ親たちへの信仰に対する教育に力を注ぎました。特に、地方教会が主から賜った嗣業の地であること、すなわち、地方教会に植えられ、根付き、地方教会中心の生活を築くように教えました。これは、選択の自由を奪い束縛するかのように見えますが、そもそも、相続とか継承、受け継ぐことは束縛とも言えるのです。しかし、主から賜った嗣業を受け継ぐかどうかの選択の自由はあります。

では、少し具体的に説明します。「主は私の受ける分」としての受け継ぐ嗣業には2つあると思います。それは「信仰」と「教会ビジョン」です。

今回は信仰の継承についてお証しします。まず、子育てクラスを新生児から4歳までと、5歳以上の二つのクラスに分けて、お母さんがたをコーチングします。お母さんがたの神を敬う心と実際生活、それに価値観が子どもに大きく影響するからです。

そして、小学生から高校生においては、ホーム & チャーチスクールにおいて、学業とともに信仰の導きをします。それだけでなく、大学生を中心に中高生のための交わりの時間を持っています。大学生の経験を通して、

思春期と信仰生活の葛藤のためのアドバイスをします。

さらに、大学生以上は次世代としてスピリチュアルトレーニングの時間を週に一度持ちます。ここでは、知識と共に実践のためのロールプレイを交えながらの導きをします。いま彼らは教会の柱となりつつあります。次世代ではなく中心的世代となってきました。そして、彼らの次の世代である自分たちの子どもたちを、嗣業を受け継ぐように導くまでに進んできています。

この30年間を通して、新生児から高齢者に到るまで「つながる」が実現しました。ここに新しい魂が加えられて、さらに、全世界へと「主は私の受ける分」をつなげていきたいと思います。主の御名が崇められますように。



スピリチュアルトレーニング風景

ボール1つで、子どもとつながる、地域とつながる、多教会とつながる

シオン宣教団

山下 翼
小阪シオン教会



2011年9月、シオン宣教団小阪シオン教会誕生。やがて小学生の受洗者も2名与えられ、もっと多くの子どもとつながりたいと思うようになり、いろんなことに取り組んだのだがなかなかうまくいかない日々が続く。そこで祈って与えられたアイディアがこの、ドッジボールを通して子どもたちとつながる、というものであった。

なぜドッジボールなのか。理由はいくつかある。まずはボール1つでできるということ。さらには広い場所がなくてもできる。レベルの差がほとんどない。男女ともにできる。ルールが単純。逃げるだけでもヒーローになれる。そして何より子どもたちはドッジボールが大好き。これらが理由である。

あくまで伝道なのでドッジボールから教会へのブリッジが必要。そこで次のようなストーリーを考えた。①土曜日に他教会と試合を組む（まだうちは小学生2名しかいないけど・・・信仰によって）。そしてその試合に向けて、②近くの公園に行き、ドッジボールチームを作る（「今度隣のライバルチームと試合やねん。助けて」）。



公園でのドッジボール練習風景



年末恒例ドッジボール関西大会

③試合後、「明日（日曜日）、教会でお疲れ様パーティや！ ○時集合！ 無料やで！」（もちろんキッズ礼拝であることは言うまでもない／笑）。

こうして実際に私は①2015年6月6日（土）に同じ教団の大阪シオン教会と試合をすることにした。そしてその試合に向けて、②5月23日（土）と5月30日（土）に近くの公園に行き、ドッジボールのチーム作りをする。心配事はいろいろあった。天候は大丈夫だろうか、子どもは公園にいるだろうか、1週間後の約束を覚えて当日来てくれるだろうか。しかしそんな心配は主の前に無用であった。6月6日（土）、天候も守られ、小阪シオン教会チームだけで21名の小学生が集まってくれたのだ。「先生！強いやつメッチャ連れてきたで」。こうして試合を終え、③翌日の案内をし、6月7日（日）には7名の小学生が集ってくれて、第1回目のキッズ礼拝をすることができたのである。

今現在、主は127名の小学生とのつながりを私たちに与えてくださっており、そのうちの40名を超える小学生を主はキッズ礼拝へと送ってくださった。また地域の大学生ともつながりができボランティアをしてもらっている。さらには保護者とのつながりもでき礼拝に来てくださったり、家に招いてくださったりという展開を主は与えてくださっているのである。

手ごたえを感じた私はこのグッドニュースを黙っておくことができず、いろんな牧師先生と分かち合った。すると主はたくさんの教会ともつながりを与えてくださることとなった。その後毎月、東大阪大会という名で試合をすることとなる。また10月にはKFSM（キッズ&ファミリーサポートミッション）とのコラボが決まり、第1回関西大会をすることができたり、さらには年末には10教会合同で八尾の体育館にて第2回関西大会をすることもできた。2016年春には春のスポーツフェスティバルということで1日がかりの企画（ドッジボール、昼食、キッズ礼拝）をすることもでき、2016年夏には浜の宮ビーチ（和歌山市）にて第1回ビーチドッジ関西大会を、2016年冬には藤井寺の体育館にて第5回目の関西大会も開催することができたのだ。こうして主は、たくさんの教会ともつながりを与えてくださったのである。

2015年5月、小学生2名から始まったこのミニストーリーを主は憐れんでくださり、たくさんのつながりを与えてくださった。まさに60倍の祝福であった。今もなお100倍の祝福を求めて「ボール1つでリバイバル」を合言葉に、毎週ドッジボールをしている。



岐阜純福音教会は、今年の夏で開拓以来60年を迎えます。ノルウェー生まれのピーター・ボルゲ師ご夫妻が、戦後にシアトルにわたり、フィラデルフィア教会から岐阜県各務原市に遣わされました。私たちは、神奈川県横浜須賀市での約8年にわたる開拓伝道を経て、30年前に岐阜に赴任し、宣教師ご夫妻の後継者となりました。ご依頼のテーマである「つながる」をテーマに、私たちの教会の取り組みを簡単にご紹介したいと思います。

牧会者の継承

私が33歳で赴任した30年前は、子どもたちから年配者まで幅広い年齢層がすでに存在していましたので、30代から60代までの役員さんたちの年齢を中心に交わり、コミュニケーションをとる必要がありました。十代から青年層にかけての働きに力を向けることはできませんでした。そのため、若者のためには伝道師や神学生、信徒のリーダーたちの力を借りる必要がありました。妻は女性会（婦人会）担当の伝道師として働いてきました。

約4年前に、32歳の息子家族が米国での神学の学びを終えて帰国しました。父親である牧師のアドバイスで

他教会で働くことを希望していましたが、教会からの招聘を受けて祈った結果、岐阜純福音教会で働くよう導かれ、青年担当主事となりました。約2年前に副牧師として按手を受けましたが、引き続き十代から青年たちのために集中して働きを進めてもらっています。教会の高齢者が増える中で、次世代を獲得し育てることが急務となっているからです。息子の健副牧師夫婦は、ティーンズの会などをもち、教会での卓球大会やおもちパーティーなどの季節にちなんだイベントを日曜礼拝後に開催し、そのまま参加者たちを午後の第三礼拝参加につなげる努力をしています。その他、春と秋に一泊二日のユースキャンプを教会で開催し、青年たちが安く参加できるようにし、救いと成長の機会として用いています。単立ペンテコステ教会フェローシップの他教会からの参加者も大勢あります。

地域社会とのつながり

私たちが赴任した当初から、地域とのつながりには心がけてきました。コンサート集会、英会話教室、サマーフェスティバルなどは、長年開催し続けてきました。10年くらい前からは、若いお母さんたちへの伝道のためにチームを作り、妻が中心となって「子育てママの元気クラブ ポニー」を作り、月に1回昼食付きで開催しています。そこに来ているお母さんたちで、さらに聖書に関心を持つ人のために3年前から副牧師夫人が中心となって「お母さんのほっとタイム Mom's Joy」を月1回開催しています。その他に土曜日朝にはサタデー・キッズクラブを開き、50分の「えいごであそぼ」のあとに休憩を入れて「ひかりのこども」を50分持ち、福音を伝える努力をしています。これらの会を通して多くのつながりができていますので、サマーフェスティバルなどの催しをすると、多くの未信者の家族が参加して下さいます。その他にも、教会員の賜物を生かして、ジョイフル・コーラスグループなどがあり、いろいろな形で伝道と交わりの機会として用いています。



小山大三牧師夫妻・小山健副牧師家族



ティーンズ卓球大会



ユースキャンプ

つながる

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

大引巻代

氷見キリスト教会



私が奉仕させて頂いている氷見キリスト教会は、能登半島の付け根に位置する富山県氷見市にあり、人口5万弱の漁業と農業の町です。

氷見に来て34年になります。日々キリストの手紙として人々に読まれ、キリストの香りを放つ者で有りたいと願って生活しています。

伝道者となってから、「福音のために、わたしはどんな事でもする。わたしも共に福音にあずかるためである。」(I コリント 9:23) と願い地域と深く繋がってきました。

始まりは、氷見市に特別養護老人ホームが初めて出来た昭和62年。2歳の男の子を連れてのボランティア活動です。そして、平成元年から地区の老人福祉活動、並行して氷見市健康づくりボランティア活動。平成15年から行政への市民参加の委員などになりました。今は氷見市自治基本条例検討委員会の委員として、氷見市のあり方、行政と市民、議会等について話し合っています。

これらの活動が、福音伝道にどう繋がっているかをお証ししたいと思います。老人ホームでのボランティア活動で、どの様に死を迎えることが人として幸せなのかを考えました。そして、ケアマネジャーの資格をとり、居宅介護支援事業を始めました。住みなれた自宅で生活できるよう支援をしています。死を迎える何人かの方の為に一緒に祈りをしました。

地区の老人福祉活動の「シルバー談話室」と「ふれあいランチ」のボランティアコーディネーターを25年続けています。そんな中で、年に1回「シルバー談話室」で約50名の方に聖書法話会と銘打って福音を語る時が10年続けられ、北陸でご奉仕くださっている先生のご協力をいただいています。

健康づくりボランティア活動とケアマネジャーの働きをミックスした、介護予防の取り組みとして教会で「きときと100歳体操教室」を週2回昨年6月から開きました。ご近所の方や色々な繋がりで見知り合った方など平均17名の参加者を得ています。この方達の中からクリスマス会に来られる方も多くなりました。

そして、今年2月18日氷見市企画「氷見市ドリームプラン・プレゼンテーション」に参加しました。“びんびんキラリ「みんなが100歳まで輝くセンター」”の10分間プレゼンを約100人の参加者と楽しみました。内容は元気に生ききるために、「栄養・休養・運動」が大切です。その中の休養の部分で「聖書を読むことと、お祈りで私は平安の内に早寝早起きができています」と証しました。仕事づくりにこれから広がっていくことでしょう。

沢山の方々との顔の見える関係づくりで、人生の危機の時にその人がイエス様の助けを求め救われるために、支援者になりたいと願っています。

プレゼンはユーチューブで見ることが出来ます。

https://www.youtube.com/watch?v=9lc_bfQ9eEA



氷見市ドリームプラン・プレゼンテーション



びんびんキラリ試食会

つながる

日本オープンバイブル教団

代表 菅原 亘

神戸栄光キリスト教会 主管牧師



キリスト者は天の父とのつながりをイエス様の十字架によって回復させていただきました。イエス様が仲介者となられたのです。自然に生まれるつながりもあれば、一度途切れてしまった昔のつながりもあります。まさに人間関係と共に天の父と御子イエス様と聖霊様との関係がすべてであります。

つながりは絆でもあります。親子、夫婦、肉親は自然に派生する身近なつながりですが、成長に従いつながりは拡大していきます。小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学校、やがて職場へとつながりが拡大する中で人間関係の機微を学んでいくことになります。そして教会にも導かれて今までとは経験がない異質のつながりの世界へと入っていきます。

教会ではキリストの十字架と聖書の教えに従って新しいつながりが生まれてきます。そこでは従来の家庭や学校や職場や趣味仲間とは違う絆、つながりの世界です。教会でのつながりは利害が伴いません。会社であれば嫌なことがあったりしても生活がかかっているので嫌でも我慢しなければなりません。嫌な上司でも仕方なく我慢します。しかし教会は信頼と尊敬がつながりの基盤です。

とても美しい世界でのつながりとなる可能性を秘めています。

良きつながりが絶えず新しいエネルギーを生み出す。

教会ではまず、クリスチャンはイエス様と天の父と聖霊様とのつながり絆を第一にするように教えられます。イエス様がベタニヤのマルタに言われた通りです。「無くてはならぬものは多くはない。いや、ひとつだけです。マリヤからそれを奪っていきません」。主なるお方との良き交わりこそエネルギーの源となります。人間関係でもつながりが壊れるとエネルギーをロスします。夫婦関係が壊れると働く意欲も失われるでしょう。親子の関係も壊れるとやる気が失われます。しかし良好な関係であれば働く意欲も湧いて来るというものです。

この原理を知れば、私たちは良いつながりを保つためにエネルギーと時間と経済を使うことを惜しんではならないのです。

教会では指導者と聖徒たちのつながりが目に見える形として重要です。

指導者は絶えず聖徒たちを教え導き模範として生活して正しく指導することが任務となります。この関係の中でいつの間にか教会は神の家族という意識よりも牧師と信徒、教える人と教えられる人、教師と生徒の関係で終始することになることが多いのです。訓練する人と訓練される人の関係のまま教会生活を送ることがしばしばあります。これがひとつの罫になることとなります。教会の本来の姿、つまり家族の関係が失われて行く罫です。指導者は天の父の心を持つことを絶えず意識していなければなりません。牧師はお父さん役なのです。聖徒たちはその家族の息子娘たちとして接することがとても重要なことなのです。教会は訓練の場ではありますが、それ以前に安息を見いだせる家庭でなければならないのです。

聖徒と聖徒のつながり。

聖徒たちは指導者の考え方に似てきます、その人格に似てきます。

教会の中に柔らかな空気が充満することは良いことです。ピリピリして指導者の顔色をうかがうようなつながりでは良い教会とは言えないでしょう。

聖徒たちが安心して礼拝後にも居残って食事をしたり交わったりすることが出来る空気やそのような場を提供する工夫が大事です。

礼拝後の昼食会はなごみのひとときです。良いつながりを提供出来る場です。

また小グループで食事に出かけたりその時に分かち合いなどをすれば最高です。

良好な関係、つながり、絆から新しいエネルギーと癒やしが生まれて来るのです。



神戸栄光キリスト教会



神戸栄光キリスト教会スタッフ一同

次世代へのつながり

日本チャーチオブゴッド教団

ユース部代表 小石 臨
グレイスリバーチャーチ



私達、日本チャーチオブゴッド教団の特徴の一つは、今までの教団の65年の歩みを通してユースや次世代の育成に力を入れてきたことにあります。現在、教団の本部教会となっている東京ライトハウスチャーチは、もともと1963年に「下丸子ユースセンター」として開設された働きから始まった教会であり、当初から教団として若い世代への宣教と伝道活動に力が注がれてきました。

そのユースの為の様々な働きの中で、特に大きな役割を果たしてきたのが、年に2回春と夏に開催される教団主催の3泊4日のユースキャンプです。1974年8月に夏のユースキャンプが開始され、1977年3月からは、「下丸子ユースセンター」が教会となった「下丸子シオン教会」（現在の東京ライトハウスチャーチ）の大学生会が主催し、企画運営する学生による学生の為のユースキャンプが始まりました。

当時の教団監督であった故・八束和心師の若い世代に対する救霊と育成の情熱のもと、大学生を中心とするユース自身が、各キャンプごとにヴィジョンを設定し、テーマを定め、自ら運営していく、ユース主体のユースキャンプがその時から開始されました。このユース主体のキャンプ運営のスタイルは、当時から、2017年のこの春に第40回目を迎えた今日までずっと引き継がれています。

このスタイルは、教団各教会に分かち合われ、2016年の夏まで各教会のユースが主体となってキャンプの運営が行われてきました。キャンプ4日間の毎日行われる聖会の中で、ユース達は自ら主に熱く祈り、心から賛美をささげ、神様と出会い、神様から新しいチャレンジを受け、ある者は聖霊に満たされ、ある者は献身に導かれる時として用いられています。

さらに、そのようなユースキャンプと共に、教団の各教会のユースの働きは横のつながりにおいても強められ、また、世代から世代に受け継がれていく縦のつながりにおいても、素晴らしい祝福と継承が与えられています。

2016年には、その縦と横のつながりの恵みを踏襲しながら、教団としてはじめてユース部が設立されました。今までは個教会の導きが主でしたが、昨年からは、ユースの主体性の良さを保ちながら、さらに教団全体として一致した新しい働きを目指そうとしています。

ユースが主体となって導くことの最大の素晴らしさは、ユース自身の祝福と成長にあります。それによって、ユース世代の中における良い信仰継承ももたらしています。ユースの世代に一番影響力を与える力を持っているのは、ユース自身です。教会の教職や年の離れたスタッフより、ユースの上の世代の働きが、すぐ下の世代の働きに、はるかに大きい影響力とモチベーションを与えることがよくあります。10代前半のユースは、10代後半～20代前半の先輩のユース達が熱く賛美し、祈り、主を求め、みんなをリードしていく姿を見て、同じように感化されて、自分たちも成長させられていきます。勿論、中心的な霊的指導や監督に教職の働きはなくてはなりませんが、より実践的な信仰継承においては、年齢の近いユース達自身の良いモデルほど、説得力のある啓蒙者はありません。

自分自身34年あまり、ユース参加者として、またスタッフとしてこの恵みの連鎖に携わる中、多くの先輩クリスチャンから恵みを受け、犠牲を払うことの大切さを学び、また、主に仕えるスピリットが次の世代に受け継がれていくのを見てきました。そのような“次世代へのつながり”は、何にも代えがたい教団の宝です。私達は、主に感謝しつつ、この切れ目のないユースの信仰継承をしっかり保ち、さらに新しい宣教と新しいつながりに向けて今、踏み出しているところです。



日本 COG ユースキャンプ集会風景



日本 COG ユースキャンプ参加者全体写真

つながる

日本ネクスト・タウンズ・ミッション (NTM)

高橋 務

主イエス恵愛教会

イエスは彼らに言われた。「ほかの、附近の町々にみんなで行って、そこでも教えを宣べ伝えよう。わたしはこのために出てきたのだから。」マルコ 1:38

NTCの創設者J・M・ベル師夫妻に、この宣教のビジョンが与えられ、1957年6月22日に石切（東大阪市、当時は枚岡市）開拓より始まったのがネクスト・タウンズ・クルセード（NTC）、現在はクルセードをミッション（NTM）に改めています。私たちの群れはさまざまな変遷の中、現在は東京から沖縄まで19教会が、ネクスト・タウンズ（次の町に福音を伝える）のビジョンで結ばれています。

今回の「つながる」のテーマで、過去、現在、将来を考察するとき、原点に帰る必要を考え、それとともに新しい愛の結びの帯と、同じビジョンで結ばれることが大切と考えています。コロサイの教会が、上に下に、内と外に頭なるキリストと、体なる教会が愛の結びの帯で結ばれたようにです。

第一に当然のことですが、まず、各教会、牧師、リーダー、信徒の一人一人が、しっかりとキリストに結ばれることです。チェーンの強さは、一つ一つの鎖の輪の強さで決まります。その愛のいのちで結ばれるなら、やがては必ず成長し、多くの実を結びます。次世代への取り組みは、各教会が最も大切な、課題として祈り取り組み、情報を分かち合っています。



NTM 中部地区合同集会

第二にNTMとしての教会、牧師たちのつながりです。現在年2回の修養会で互いのきずなを深めています。講師を招いての研修会や、過去には、アメリカツアーや、国内での旅行など、研修や親睦と交わり、教会巡りなどで、その都度の必要により、さまざまな形のつながりです。有志の教会では、講壇交換などのつながりも持たれています。また、東海地区の教会では、群れとしての必要性を感じ、有志の教会が集まり、定期的に合同集会をして交わりを深め、お互い良き祝福を分かち合っています。



高山右近記念碑 後方中央筆者

第三に地域における結びつきは、個々の諸教会のビジョンや方針、地域事情などで、それぞれが活動しているのが実情です。各教会では、いろいろな取り組みがなされているようですが、今回、紹介することはできません。私たちは、愛知県春日井市に教会がありますので、ハーベスト・フェローシップ（東海地区のペンテコステ諸教会の交わり）や春日井・小牧牧師会（福音派とペンテコステなど超教派の交わり祈り会）で地域の教会とつながりを持ち、地域の人々とのつながりは、小さい集まりですが、子育てクラスや、市の花火大会に合わせ、毎年バーベキュー会など、できることをして、地域の方にも喜んでもらっています。

最後に、ネクスト・タウンズのマザーチャーチとなる、アメリカのデスティニーチャーチとの結びつきです。初期の時代のように、関係を深める必要性を強く感じていますが、現在の実情は頻繁ではありません。今回のつながる

というテーマは、教会成長とリバイバルのカギであると信じます。JPC の先生方や、教会とも愛の絆で固く結ばれ、ともに力を合わせて、主の福音を伝え、全日本に、全世界に、神の御栄光が現わされるのを願ってやみません。

つながる

日本フォースクエア福音教団

大城けい子

福音グローアップチャーチ 主任牧師



1. 聖書学校

2007年9月1日関東フォースクエア聖書学校が誕生・第一期生が入学。私は、「つながる」というテーマを見た時、まさに私たちが信じているこの福音を、信仰を次世代につなげていくという事を思いました。どのようにしたら、次の世代につなげていけるのでしょうか？ イエス様が弟子をつくれ、その弟子たちに宣教を任せられたように、私たちも、自分たちの見たこと聞いたこと、信じてきた事を伝え、その次の世代へも伝えていく使命があります。2000年当教団のトップであった、比嘉幹房先生に将来構想委員会というその流れの中で、神様が見せて下さった幻があります。日本全体（日本地図）がまるで、人間の体のように、骨が……という現れでした。それに、骨を付け、ビジョンを明確にしていったとき、何年までにどれくらいの教会が……どれくらいの牧師が……と、具体的になっていきました。当時、教区長をしていた私に、「あなたをクレテにおいてきたのは、わたしがあなたに命じておいたように、そこにし残してあることを整理してもらい、また、町々に長老をたててもらうためにほかならない。」テトス1：5（あなたを関東においたのは……）とのみことばを下さいました。私は、この教団が伸びていくためには、勿論、海外からの宣教師を受け入れ、いろんな場所に教会が開拓される事は良いと思うのですが、日本人の中から献身者が起こる必要を思われ、神学校・聖書学校の必要性を訴えました。当時、教会で訓練をし、働き人を起こす……神学校など時代にそぐわないとの意見が多かったのを覚えています。しかし、ある牧師会で、その必要性を語った時、「やった方がいいです」「だれが」「大城先生あなたがやればいいですよ」と。

神様は、聖書学校の方法も、授業の内容も語って導いて下さいました。今、その働きが10年を迎え、42名の入学・23名の卒業生がおります。その中から教団の教職者になる者・教会の働き人いろいろですが、次世代につなげるには、次世代の弟子を作る事が最大の事と考えます。

2. VISION 推進委員会をととして、次世代の育成

また、前総理を通して与えられた、「VISION 推進委員会」では、特に若者たちへのセミナーを通して、若者たちが、目が開かれ、変えられていっています。これから、大きな流れになる事を期待し、更に4年間（特命委員会）として、次世代育成、教団のVISIONの推進のため、若者たちに財や時間を投資していくのは、大事と考えています。

3. 牧師たちを教育、励まし

つなぐという時、今神様のために働き、苦闘している牧師たちを慰め、励ましていくのは大事です。個教会が強められ、牧師たちが強められていくのです。毎月4日を祈りのチェーンでつなぐ。

4. システムの充実・後継者ができるようにする

教団も様々な必要を覚えます。霊的な事、教団システムの管理など。年に一回持たれる、教団大会の運営管理・教師が誕生するまでの教師認定までのセミナー・試験等、様々な事が管理されスムーズに流れるように。どなたが理事になっても、教団の事務的管理など、円滑にできるように整える。

5. 各教会の後継者・教団の全体を動かす人たちを育成する

教団もやがて 70 周年を迎えます。初代の方々や多くの先輩たちの教会に後継者の問題が起こります。きっちとバトンが受け継げるように、教団としても、協力、サポートしたいと考えています。



聖書学校



卒業式

日本ベテルミッションのつながり

日本ベテルミッション

津坂良夫

福生ベテル教会

日本ベテルミッションでは、昨年 2016 年に、シアトルにかつて存在した、私たちの母教会であるベテル・テンプレのルーツと「つながる」という目的を果たすために、いくつかの活動を行いました。

第一に「ベテル・テンプレの日本宣教史」を再編集して、若い世代に残し、グループをまとめるために日本語と英語版を作成することでした。私たちは、ベテル・テンプレをルーツとする諸教会が互いの自治を認め合い、協力と支援を目的とする団体として、1992 年に設立されました。ところが母教会であるベテル・テンプレが 2003 年にシアトルにあるシティ・チャーチに吸収合併されたため、私たちとしては、母教会を失ってしまったことになりました。しかし幸いシアトルにはベテル・テンプレから生み出された枝教会がわずかですが残っており、又インドネシアとオランダにも存続しています。そしてシアトルには、ベテル・テンプレと枝教会の牧師たちが「ベテル・インターナショナル・フェロシップ」という牧師会を形成しています。そこで、日本ベテルミッションでは、次世代への「つながり」を保ち、ベテル・インターナショナル・フェロシップとの関係作りのために、今回「ベテル・テンプレの日本宣教史」を再編集し、私たちのルーツを再確認しました。

第二に、私たちは2016年9月に「ベテル・templのルーツを訪ねるツアー」を若い世代の教職者とともに行いました。ツアーでは、ベテル・templの枝教会として生まれたいくつかの教会を訪ね、その教会の牧師たちとの交わりをもちました。訪問した教会は4教会でしたが、どの教会でも私たちを心から歓迎してくださったことがとても印象に残っています。しかしすでに引退した牧師、宣教師たちは高齢に達しているため、毎月、レストランでの食事会や年に一度のバーベキューなどを通して交わりを保っています。今回は私たちもツアーの中で、その交わりに加えさせて頂くことができました。

そこで私たちが「ベテル・templの日本宣教史」の英語版をお渡しすると、改めてベテル・templの日本宣教の成果を見て、牧師や宣教師の方々に大きな感動をもたらしました。小さな冊子ですが、英語版を作成してよかったと思いました。

又私たちのツアーは「ベテル・templのルーツを訪ねる」でしたが、ある牧師から「ベテル・templのルーツはあなたがたです。」と意外な言葉をかけて頂き、私たちも大いに励ましを受けることができました。その言葉の通り、ベテル・templから派遣された宣教師たちによって開拓された群れは、インドネシア、オランダ、日本で前進しています。

このベテル・templは、1914年から2003年までの約90年間に、主に海外宣教をビジョンとし、海外宣教に生きた教会であり、国内よりどちらかというと海外宣教に重荷をもって全力を出し切った教会でした。又創設者であったW.W オフラーは、宣教師を派遣する際、各自に所属する団体を委ねたため、形としてベテル・templは残りにくかったという歴史があります。そのため、なかなかルーツを探ることが困難になってしまいました。しかしながら、ベテル・templ出身の宣教師たちが、まだ何人かインドネシア、インド、そして日本において宣教の働きを継続していることは喜びです。

第三に、昨年から日本ベテルミッションの聖会を年に一度開催することを決定し、2016年10月に、日本ベテルミッションの第1回目の聖会を久留米ベテルキリスト教会で「つながる」をテーマにして開催致しました。私たちのグループは少数のグループであり又岩手県、東京、そして九州と各地に点在していますので、なかなか一緒に集まるのは困難な状況です。そこで、聖会を通して一つのグループであることを確認しながら、つながりを保ち、それぞれの地域で宣教を推し進めています。



日本ベテルミッショ 第1回聖会



ベテル・templのルーツを訪ねるツアー

バザーで地域とのつながり

日本ペンテコステ教団

爲房晃夫

花園キリスト教会



「わたしがあなたがたを引いて行ったその町の繁栄を求め、そのために主に祈れ。
その繁栄は、あなたがたの繁栄になるのだから。」(エレミヤ 29：7)

ハレルヤ! 主の御名を賛美致します。

当教団には、東は長野県から西は熊本、鹿児島県にかけて、主に関西を中心に、現在約 20 教会が所属しています。各教会が置かれた地域は、都市部、地方の町、人口の密集地、山間部など、それぞれ地域性は異なりますが、「日本とペンテコステ、イエス・キリストの再臨まで!」と、聖霊の力によって前進しています。

今回は、花園キリスト教会の場合の取り組みを紹介させていただきます。当教会は、近鉄奈良線「河内花園駅」の高架工事に伴う駅前再開発事業に伴い、現在の場所に移転し、12 年目となります。教会堂は駅前の商店街の中にあり、牧師家族自身、地域住民でもあります。

「測り綱は、私の好む所に落ちた。まことに、私への、素晴らしいゆずりの地だ。」(詩篇 16：6)

教会の使命は、福音宣教と救霊ですが、まず牧師が、教会が導かれた地域は「素晴らしい譲りの地」「乳と蜜の流れる素晴らしい約束の地」と感謝しつつ、聖霊の導きを求め、日々、地域の祝福と繁栄を祈ることから始めました。

移転して 3 年目頃、商店会の方からお声がかかり、商店会の役員会のメンバーとして入り、徐々に地域の實際がわかるようになりました。その頃、商店会で、商店街活性化のために、年 1、2 回「100 円商店街」というイベントをすることになり、当教会は「バザー」という形で参加することになりました。イベント等によって即、伝道の結果が出るというものではありませんが、イベント時には、フルートコンサートや伝道用冊子の配布などをします。

バザーを始めると、教会の信徒だけではなく、未信者の地域住民も不用品、あるいは手作りの小物や手芸の作品を提供して下さるようになりました。それがまた「接点」となり、徐々に新しい出会いも生まれてきました。商店街のイベントに連動する形で約 10 年間、「地域とのつながり」に取り組んできましたが、それは一朝一夕にはいきません。日頃からの地道な活動にかかっています。約 50 店舗の小さな商店街であり、商店会には会合場所がなく、教会堂 1 階ホールを商店会や自治会の会合など、地域のコミュニティーセンターとして提供しています。まず牧師自身、地元の一員として、商店会の清掃奉仕や夜間パトロールなどにも積極的に参加していま



2019「ラグビーワールドカップ花園」開催に向けて
(2016.10.6)



「百円商店街」でバザー開催 (2016.11.26)

す。その模様が地元ケーブルテレビの広報番組で取り上げられるなど、教会の存在を発信しています。

移転後 12 年を振り返りますと、まず地域社会の実情を知り、地域の側が教会に対してどういう「役回り」を期待しているか、教会に対するニーズを知り、それを取り込む形で、まず地域の人々との「接点」が生まれ、そこから浸透していく流れとなりました。日頃から地域社会を見ていると、「接点」は、おのずから見えてくる、生まれてくる、開けてきます。駅前再開発に伴い、ワンルームマンション等も増えてきました。イエス様が地域をどう導いておられるか、日頃から、地域の動きを見つつ、教会として主体的な動きができるようにと常々考えています。

教団所属の教会、牧師先生方と共に、自らが遣わされた地域を愛し、仕えては、素晴らしい福音を届け、魂の大収穫を信じ、さらに前進していきます。

日本ペンテコステ協議会総会雑感

日本ペンテコステ協議会

書記 佐藤成紀



2016年11月24日(木)正午より、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団中央聖書神学校チャペルにて、日本ペンテコステ協議会総会が開催されました。11教団から計16名の出席があり、また1教団から2名のオブザーバー参加もありました。

寺田文雄議長が挨拶をし、昼食の時間に各教団から近況報告がありました。JPC 役員の山口和正師がディボーションを担当し、マタイ 28:18-20 と使徒 9:31 から弟子づくりの大切さを語りました。前回議事録、2016 年度活動および会計報告について説明があり、一部修正を加えた上で、承認されました。続けて、以下の 2017 年の活動計画について確認がありました。

日本ペンテコステ協議会研修会

日 時：2017 年 6 月 8 日(木) 11:00 ～ 16:00

場 所：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 中央聖書神学校チャペル

会 費：一人 3,000 円

プログラム：11:00 ～ 12:00 礼拝 説教：大城けい子師

12:00 ～ 13:30 昼食

13:30 ～ 16:00 講演 テーマ：「つなぐ」

講師：村上好伸師、村上愛信師

日本ペンテコステ協議会総会

日 時：2017 年 11 月 21 日(火) 12:00 ～ 16:00

場 所：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 中央聖書神学校チャペル

2017 年度予算については、1) 日本ペンテコステ・ネットワーク (JPN) 協力献金を予算化する、2) 事務諸費の備考欄に PAM 事務費と記載する等の提案があり、活発な議論の末、2017 年度の計画と予算案は満場一致で承認されました。

その他、翌日開催予定の JPN 懇親会や 2017 年に開催される日本宣教フェスタ、東京ファイヤーカンファレンス、ラブ・ソナタ 10 周年、宗教改革 500 周年等の案内がありました。日本フルゴスペル教団が、JPC 加盟を前向きに検討中というお知らせもありました。さらにペンテコステ世界大会、日本伝道会議、日・韓宣教協力会議についての報告もありました。最後に祈りをもって、総会が終了しました。

日本ペンテコステ協議会規約

- 1) 本会は、名称を『日本ペンテコステ協議会』（Japan Pentecostal Council 略称 JPC）とする。
- 2) 事務局
本協議会の事務局を日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団本部に置く。
- 3) 目的
本協議会の目的は、日本におけるペンテコステ信仰の健全な成長と発展を促進するために、ペンテコステの教団及び教団に準ずるグループの指導者・教職者間における交流を深め、情報交換及び相互理解を図り、教職研修を行うことにある。
- 4) 信仰宣言
本協議会の構成員は、以下の信仰宣言を告白するものとする。
 1. わたしたちは、聖書が靈感された、唯一の誤りのない権威ある神の言葉であることを信じる。
 2. わたしたちは、父と子と聖霊の三位において永遠に存在される唯一の神を信じる。
 3. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストの神性、処女降誕、罪のない生涯、奇跡、十字架の血による代償的贖罪の犠牲、肉体をもつての復活、父の右の座への高举、また、力と栄光の中での再臨を信じる。
 4. わたしたちは、失われた罪人のためには、みことばと聖霊による新生が不可欠であると信じる。
 5. わたしたちは、異言の証拠を伴う聖霊のバプテスマを信じる。
 6. わたしたちは、聖霊の今日的働きによる肉体の癒し、および種々の聖霊の賜物を信じる。
 7. わたしたちは、聖霊の内在によって清い敬虔な生活が可能となることを信じる。
 8. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストにおける信者の霊的一致を信じる。
 9. わたしたちは、聖徒の復活、失われた者の審判、新天新地を信じる。
- 5) 活動
定期的に会議を開催し、各教団及びグループの指導者・教職者間の交流、意見・情報の交換、研修その他必要な活動を行う。広報誌と機関誌を発行する。
- 6) 総会
本協議会は最高議決機関として総会を置く。総会は、加盟教団にそれぞれの教会数に応じて割り当てられた数の代議員によって構成する。

50 教会以下	代議員 1 名
51 ～ 100 教会	代議員 2 名
101 教会以上	代議員 3 名
- 7) 役員
本協議会に議長、副議長、書記、会計を置き、その任期を 3 年とする。役員会は議長によって召集され、定期的に開催する。
- 8) 監事
本協議会に監事を置き、その任期は役員の任期に準ずる。
- 9) 経費
本協議会の経費は、加入団体の負担とする。
- 10) 附則
本規約は、1998 年 5 月 29 日より実施する。この規約の変更は総会の議決を経て実施する。
本規約は、2003 年 3 月 25 日および 2014 年 11 月 27 日に改正された。

日本ペンテコステ協議会 2016 年度会計決算報告

2015年11月1日～2016年10月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	決 算	項 目	決 算
協 力 金	540,000	総 会	28,020
一 般 献 金	140,000	役 員 活 動 費	120,012
研 修 会 礼 拝 献 金	63,400	研 修 会	152,307
研 修 会 会 費	145,000	J P N 設 立 献 金	25,000
J P N 設 立 献 金	25,000	J P N 年 会 費	55,000
J P N 年 会 費	55,000	P W F 負 担 金	53,750
雑 収 入	65	P A M 負 担 金	58,065
		J P C ニ ュ ー ス	88,608
		新 聞 広 告	66,720
		事 務 諸 費	14,192
		P W C 参 加 積 立	50,000
		予 備 費	
小 計	968,465	小 計	711,674
前 年 度 繰 越 金	617,286	次 年 度 繰 越 金	874,077
合 計	1,585,751	合 計	1,585,751

<協力金納入団体>

神の家族キリスト教会	40,000 (15,16年度)
単立ペンテコステ教会フェローシップ	40,000
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団	150,000
日本チャーチオブゴッド教団	50,000
イエス・キリスト福音の群	50,000 (15,16年度)
日本ネクスト・タウンズ・ミッション	20,000
日本フォースクエア福音教団	30,000
シオン宣教団	30,000
日本オープンバイブル教団	40,000
日本ベテルミッション	20,000
日本ペンテコステ教団	30,000
サンピ教団	40,000 (15,16年度)

<PWC参加積立>

2014年度	50,000円
2015年度	50,000円
2016年度	50,000円
小 計	150,000円
参加費補助	150,000円
残 金	0円

<JPN設立献金納入団体>

サンピ教団	25,000
-------	--------

日本ペンテコステ協議会 加盟団体一覧 (50音順)

イエス・キリスト福音の群	代表	永井信義
〒981-3604 宮城県黒川郡大衡村ゴスペルタウン 東北中央教会 TEL 022-345-2991 kakudai@ruby.ocn.ne.jp		
神の家族キリスト教会	代表	水野明廣
〒464-0094 愛知県名古屋市千種区赤坂町4-64 クリスマンライフ TEL 052-721-7831 info@christian-life.jp		
サンビ教団	代表	辻 秀彦
〒730-0812 広島県広島市中区加古町14-8 ジーザスフェローシップ広島 TEL 082-241-8957 jfhkakomachi@yahoo.co.jp		
シオン宣教団	代表	辻本眞悟
〒920-0816 石川県金沢市山の上町26-48 金沢グレイスチャペル TEL 076-253-1790 joshua1992shingo@icloud.com		
単立ペンテコステ教会フェローシップ	代表	中見 透
〒412-0024 静岡県御殿場市東山711-24 御殿場純福音キリスト教会 TEL 0550-82-2872 gotembanewhopechapel@gmail.com		
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団	理事長	寺田文雄
〒170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20 TEL 03-3918-5935 japanaog@ag-j.or.jp		
日本オープンバイブル教団	代表	菅原 亘
〒653-0845 兵庫県神戸市長田区戸崎通3-9-12 神戸キリスト栄光教会 TEL 078-612-5511 denen-chapel@mpd.biglobe.ne.jp		
日本チャーチオブゴッド教団	監督	八束選也
〒146-0093 東京都大田区矢口2-1-18 東京ライトハウスチャーチ TEL 03-3758-1625 eriya@cog.jp		
日本ネクスト・タウンズ・ミッション	代表	岩井繁信
〒513-0035 三重県鈴鹿市矢橋町471-2 鈴鹿キリスト福音教会 TEL 059-383-5145 elim@mecha.ne.jp		
日本フォースクエア福音教団	総理	大城けい子
〒359-1125 埼玉県所沢市南住吉10-8 教団本部 TEL 04-2923-1858 info@japan4sq.org (HFD00762@nifty.ne.jp 佐藤)		
日本フルゴスペル教団	総会長	志垣重政
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2丁目2-19 純福音東京教会 TEL 03-3232-0667 (m.senoo1001@gmail.com 妹尾)		
日本ベテルミッション	代表	津坂良夫
〒197-0003 東京都福生市熊川1101 福生ベテル教会 TEL 042-551-1327 fussabethel@gmail.com		
日本ペンテコステ教団	代表	榮 義之
〒630-0243 奈良県生駒市俵口町951 生駒聖書学院 TEL 0743-74-7622 elimyoshi@kcn.ne.jp		

JPC NEWS

Japan Pentecostal Council

日本ペンテコステ協議会

事務局：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団本部内
〒170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20
TEL 03-3918-5935 FAX 09-3918-0474

